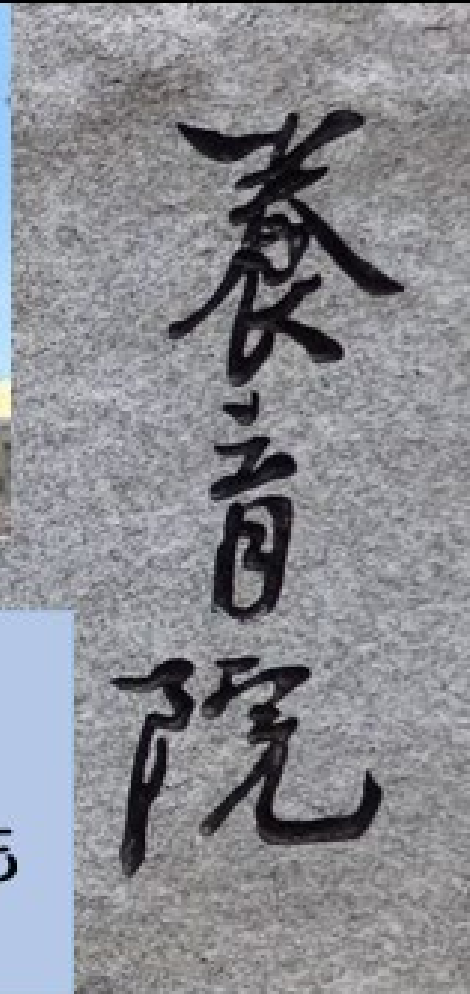
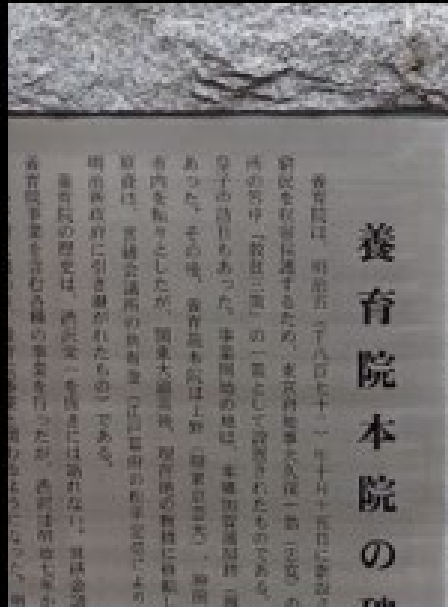


認知症未来社会への展望



ウィズエイジング
高齢者が認知機能や生活機能の
低下の有無に関わらず、何歳になっても
光り輝くために

東京都健康長寿医療センター 鳥羽研二

利益相反の開示

筆頭発表者名: 鳥羽 研二

私は今回の演題に関連して、
開示すべき利益相反はありません。

IRIDE: Integrated Research Initiative for Living Well with Dementia



Imaging



New model for Aging in place

*Create
Community*



Brain-bank



表情認識



NCGG
Medical
Genome center



Risk Chart



Biomarker



Reversion
Project

NCGG



JMINT

IRIDE 1 → IRIDE 2

共生ゴール：住み慣れた地域でその人らしく生きるお手伝いをする
気分を穏やかに、前向きな行動の手助けのAI技術を実用化する

IRIDE 1

IRIDE 2

2020 2021 2022 2023 2024 2025 2026 2027

1) ここからステーション
高島平

企画、運営、評価、分析

横展開

2) 絵本読み聞かせ

東京全自治体へ展開

3) ケアファーム

企画、運営、評価、分析

横展開

4) 囲碁など趣味活動を
活かした認知症予防

企画、運営、評価、分析、展開

共生

テーマの目的

「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が掲げる理念の実現に寄与する研究の遂行
認知症の有無に関わらず、人が希望と尊厳をもって暮らせる地域づくりを促進するためのエビデンスの創出

テーマの構成

①診断・治療・評価（井原）

抗A β 抗体のより高い効果が見込まれる患者像の探索と啓発

②診断後支援（井藤）

抗A β 抗体の登場によって新たに生じる心理社会的支援ニーズの把握

認知症等高齢者等、判断能力が不十分とされる者の意思決定

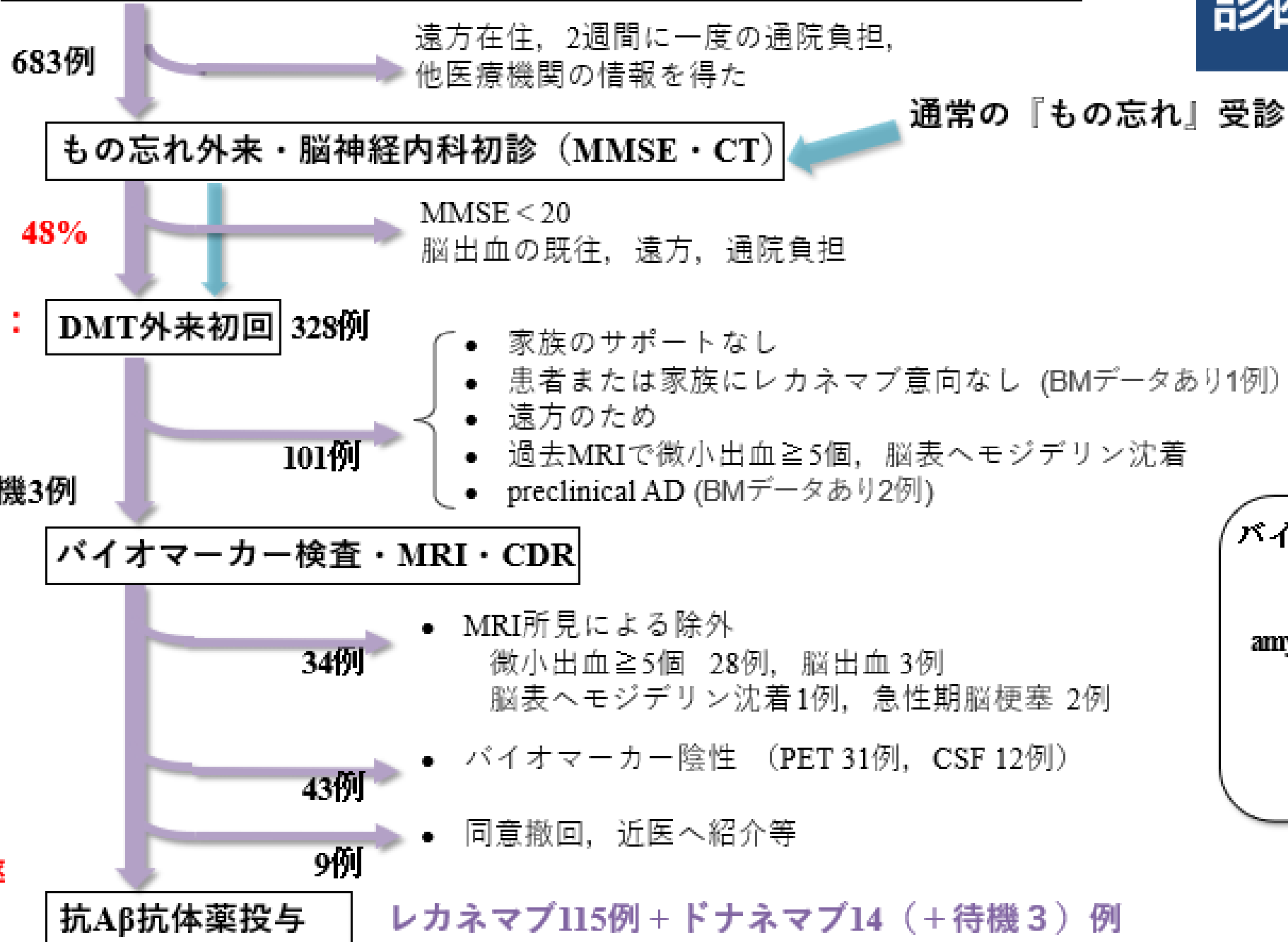
③社会的包摂（岡村）

認知症当事者の社会参加を促す区市町村向けマニュアル作成

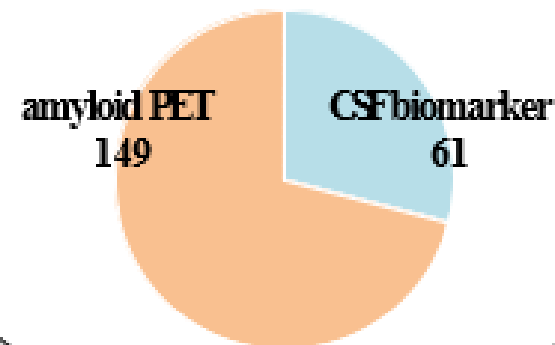
④音楽療法（柿澤）

マウス小脳認知機能の代償的回復に対する可聴域・非可聴域の音楽の影響とその作用機序の解明

「抗アミロイドβ抗体薬治療希望」の予約（認知症相談室に一元化）



バイオマーカー検査方法



研究課題

① 抗A β 抗体薬診療において患者にとって有益な情報の付与

『より良い診療体制の構築』

- 薬剤選択時のAPOE遺伝学的検査（2025年後半に承認見込み，保険収載まで）
- レカネマブ投与者の18ヶ月目アミロイドPET（バイオマーカー部門 石井・栗原先生と共同，メジフィジックス社と開始時アミロイドPETでスクリーニング症例100例分契約）

② 抗A β 抗体薬のより高い効果が見込まれる患者像の探索と啓発

『限られた医療資源の配分の最適化を目指す』

- 現在までに得られているDMT外来のデータ解析（投稿準備中）
- 臨床的重症度の軽い層に対する啓発活動（未定）

診断後支援

1) 抗A β 抗体の登場によって新たに生じる心理社会的支援ニーズの研究

① 診断後支援提供体制の課題 (Ito, Int.J.Geriatric Psychiatry, 2025)

- ・ 認知症疾患医療センターを通らない抗体医薬投与患者に診断後支援を提供するシステムを構築する必要性

② DMT外来受診前から継続投与施設転院までの期間に患者・家族生じる心理社会的支援ニーズへの対応

(畠山、日本認知症ケア学会、2025)

- ・ デジタル情報ツールへのアクセス不良を考慮した支援体制の整備
- ・ 働く若年層にも対応可能な治療環境の整備
- ・ 地域特性に応じた医療連携モデル構築

③ ニーズを多角的に把握し、東京都の課題を把握するためのインタビュー調査＋日記研究：進行中

- ・ 患者・家族（抗A β 抗体薬適応、非適応）
- ・ 専門職（DMTスクリーニング担当医師、DMT外来担当医、相談員、心理検査担当心理士、処置室看護師、紹介元医療機関医師、継続投与医療機関医師、他地域のDMT実施医療機関スタッフ）
- ・ 若年性認知症家族会、家族会、若年性認知症総合支援センター

2) 高齢者の急性期医療機関スタッフの「意思決定支援」に関する意識調査

R6の診療報酬改定：入院通則の改定「人生の最終段階における適切な意思決定支援の推進」が要件化
→各医療機関で、ACP推進の観点から「意思決定支援に関する指針」の作成が進められている

自記式アンケート調査：用語の理解、認知症の存在が意思の取り扱いに与える影響、多職種チーム内のコミュニケーション・ギャップ

パイロット調査（Dr7人、Ns28人）：用語の理解のあいまいさ、DrとNsの終末期医療に対する態度の違い、認知症があることの影響の違い

本調査 回収票561/749、回収率75%：結果解析中

(医師・歯科医師155/180(86%)、看護師358/506(71%)、薬剤師・心理士・相談員48/63(76%))

認知症とともに歩む社会 あなたはどうですか？



コホート研究部門の取組イメージ

前向きな
生活改善・行動変容

IRIDE 第I期の成果活用

リスクチャートの地域実装
(自治体連携)

行動変容に資する
実践的知見



認知症リスク研究
(社会科学系連携)

DEMCIRC研究

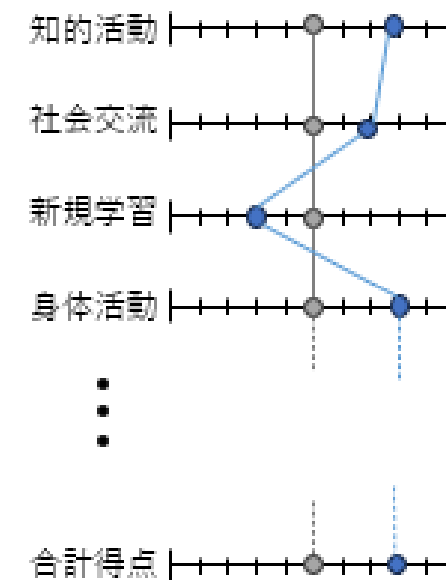
MCIの予後および認知予備能
に関する知見の取得

認知介入研究

趣味・生涯学習の
予防的効果の知見を応用

認知レジリエンス指標 (案)

構成得点プロフィール



● 標準値
● あなたの得点

コホート研究部門

統合コホートデータセット(IRIDE-CS)



計8180名のデータを統合

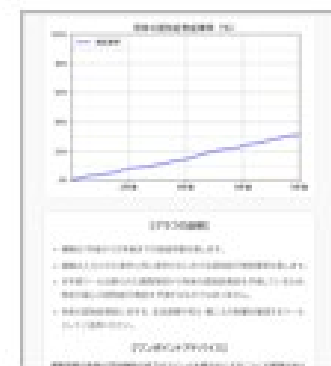
認知機能低下 スクリーニングシート



- 社会実装版スクリーニングシート (precog-8)を開発
- プレプリント公開済み(Ogawa et al. (<https://doi.org/10.51094/jxiv.1145>))
- 都内7市区の地域包括支援センター67施設に、precog-8を配布
- 特別区会議にて周知を行い、地域への展開を計画中

認知症予測ツールの開発

- 要介護認定に伴う認知症発症をアウトカムとした予測モデルを構築 (Yamashiro, et al. (in press) *BMC Public Health*)
- 構築モデルをもとに、「認知症リスクの簡単チェックツール」を開発
- 地域住民への展開として、品川区開催の健康講座参加者へ、認知症予防啓発情報の1つとして活用(9月末実施予定)
- 「とうきょう認知症ナビ」との連携について都と進めていく計画



認知症リスクの簡単チェックツール
(URL:
<https://iridecs.tokyo/demriskchart/>)